

1. 科目コード

1290

2. 科目名

M7:ビジネスプロセス演習

3. 担当教員

二見 強史 (Tsuyoshi Futami)

4. 開講期

秋2期

5. 履修要件(前提科目)

「1299 ビジネスプロセス特論」を履修していることが望ましい。(ビジネスプロセス特論未履修でも履修可能ですが、未履修の学生に対する追加の講義は行いません。)この授業は、夜間のみの授業となります。

6. 科目の目的・概要

オリエンテーションを除き、参加者によるプレゼンテーションは、随時可能です。(複数の発表大いに歓迎)発表テーマは、オリエンテーション時に参加者と決めますが、ここ数年は、日経時価総額下位ランキング(<https://r.nikkei.com/markets/ranking/caplow>)の会社に対して、なぜこの会社の評価が低いのか?あなたならできるアドバイス(特にICTを使っていること)を発表してもらっています。

7. 授業概要

- 1 オリエンテーション
- 2 簡単な指定課題のレポート提出と発表及び課題解決のための基礎理論の講義
- 3 同上(指定課題は全員同一課題、発表は全員が少なくとも1回以上)
- 4 同上
- 5 同上
- 6 同上
- 7 同上
- 8 同上
- 9 同上
- 10 同上
- 11 同上
- 12 同上
- 13 同上
- 14 同上
- 15 同上
- 16

8. 教科書

事例から学ぶビジネスアナリシス,2013,IIBA日本支部

<http://www.iiba-japan.org/know-how/BAPs.pdf> からダウンロード可能**9. 参考書**

リサーチ。メソッド(ロバート・イン「ケーススタディの方法」)
 日経コンピュータ:「動かないコンピューター」の記事など
 涙なしの統計学(英語版はアップロードしようと思います。)

10. 科目の学習目標

- (1) 問題の原因の追究と解決へ知識体系を適用できる。
- (2) 答えの見えないところに回答を作り出すに知識体系を利用できる。
- (3) 問題を発生させないようにすることに知識体系を応用できる。
- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)

11. 本学の教育目標と科目の学習目標との対応

教育目標		学習目標	
高度ICT スキルの修得	基礎的素養		
	専門知識および業務応用力	(1),(2),(3)	
人間力 (=探究力) の修得	自ら強みを磨き続ける力	(1),(2),(3)	
	自ら社会における 課題を発見し、 解決する力	課題設定	(1),(2),(3)
		仮説立案	(1),(2),(3)
		仮説検証	(1),(2),(3)
		実行	(1),(2),(3)
	社会人基礎力	前に踏出す力	(1),(2),(3)
		考え抜く力	(1),(2),(3)
チームで働く力			
職業倫理の修得			

12. 評価方法と配点

学習目標	達成度評価方法と配点					
	期末試験	小テスト	レポート	発表	成果物	その他
(1)			○	○		
(2)			○	○		
(3)			○	○		
(4)						
(5)						
(6)						
配点			40	60		

13. 評価基準

期末試験	
小テスト	
レポート	時事問題、基礎教養に関するレポート
発表	発表時間(分)×1点を原則とするが、テキストを読むだけの冗長な発表の場合は減点することがある
成果物	

その他	
-----	--

14. アクティブラーニング(A:行っている B:やや行っている C:行っていない)

授業時間全体に占めるアクティブラーニングの時間的な割合	60 %
1 授業で得られた知識や技能を活用し、出題された問題を解いたり、課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
2 グループワークで課題に取り組み、学生同士が自由に発言することで何らかの課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
3 能動的学習の成果を発表し、そのフィードバックを得て自ら主体的に振り返り、学習効果を高める	B
4 学生自身が主体となって、授業における学習の方向性を定める	A

15. 備考

ケーススタディは、ビジネススクールで用いられている教育目的のものと、仮設検証のために用いられるものと2種類あります。講義では、参考図書「ロバート・イン『ケーススタディの方法』」を用いて後者の方法論を概説します。

16. 授業計画

(注)授業計画は、あくまでも予定であり、実施時に、適時、追加・変更・修正等が生じる場合があります。

第1回 (オリエンテーション) (講義と演習90分)

1. 授業の進め方
2. 社会科学の方法論(リサーチ・メソッド)
特に、事例研究の方法論について、
動かないコンピュータの事例研究方法
企業分析の事例研究方法

第2回～第14回 (学生による発表と前回レポート課題の講義)

(講義とグループ演習で90分)

例)

- ・経済学への誘い(最新の経済学「行動経済学」では、なぜ、人間は合理的に行動しないのかを研究テーマにしていますが、この理論を理解するためには合理的な行動とは何かという古典経済学を理解する必要があります)
- ・同様に、会計学(ファイナンスとアカウントティング)、経営学(組織論とマネジメント)、マーケティングとこれらの事象をコンピュータで検証するために必要な数学(統計学、解析学、微積分)をできる限り数式を使わないで解説しようと思います。

第15回 (発表会)

(発表と講評で180分)

未発表の学生のための予備
全員が、すでに発表済であれば、総評を行います。